

教 育 文 化 委 員 会 記 録 (No.11)

1 日 時 令和5年10月19日(木)
午前10時00分 開会
午前11時52分 閉会

2 場 所 第6委員会室

3 出席委員(10人)

委 員 長	永 井 佑	副 委 員 長	森 結実子
委 員	宮 崎 吉 輝	委 員	中 村 義 雄
委 員	中 島 隆 治	委 員	木 下 幸 子
委 員	大久保 無 我	委 員	藤 沢 加 代
委 員	有 田 絵 里	委 員	大 石 仁 人

4 欠席委員(0人)

5 出席参考人

八幡東区枝光第二自治区会	会長	宮 地 久 男
若松区第39区花野路自治区会	会長	多 田 政 博
S a y ! 輪	代表	古 賀 由布子

6 出席説明員

市民文化スポーツ局長 井 上 保 之 外 関係職員

7 事務局職員

委員会担当係長 梅 林 莉 果 委員会担当係長 有 永 孝

8 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	地域コミュニティの活性化について	地域コミュニティの現状等に係る意見聴取のため、参考人の出席を求めることを決定した。 また、参考人から地域コミュニティの現状や活動状況等について意見聴取した。

9 会議の経過

○委員長（永井佑君） 開会します。おはようございます。

本日は、所管事務の調査を行います。

地域コミュニティの活性化についてを議題とします。

まず、参考人の出席要求について、お諮りします。

地域コミュニティの現状や課題等について御意見を伺うため、八幡東区枝光第二自治区会会長、宮地久男氏、若松区第39区花野路自治区会会長、多田政博氏及びSay!輪代表、古賀由布子氏の以上3名について、参考人として出席を求めたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定しました。

それでは、お越しいただきました皆様に、委員会を代表して一言御挨拶を申し上げます。

本日は御多忙中にもかかわらず本委員会に出席をいただき、誠にありがとうございます。本委員会では、地域コミュニティの活性化について現在調査を行っております。本市の住民自治の基本である自治会や町内会の将来を考え、担い手の確保に向けた方策や、NPO法人やボランティアグループの連携など、これからの地域の在り方について議論を重ねています。

本日は、皆様が地域で行われている自治会活動やボランティア活動の状況を直接伺い、今後の議論の参考にさせていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日の流れですが、宮地様、多田様、古賀様の順に簡単な自己紹介と、それぞれの活動状況などを御説明いただき、その後に各委員から御質問させていただきたいと思います。

それでは、宮地様、よろしくお願いいたします。

○参考人（宮地久男氏） 改めまして、おはようございます。枝光第二自治区会の会長を務めております宮地と申します。よろしくお願いいたします。

まず、自己紹介なんですが、平成23年から地域の自治区会の会長を務めております。もともと副会長をやっていたりして、たまたま会長が体調を崩して、そこに入ってしまったというところ

ろです。

自治会の状況なんですけども、枝光本町、旧製鉄所の本事務所のあったエリアが軸になるんですけども、それから、戸畑バイパスの最高地点というか、そちらに向けてずっと傾斜地を上がっていった地域になります。今、自治会の加入町会数は22町会、組数としては166の組があるというところなんです。世帯人口は2,400世帯、その中で実際に自治会に入っているのは1,300世帯ぐらいですか、人口が大体4,300名ぐらいです。

学校関係としては、地元にはひびきが丘小学校、それから、枝光台中学校があります。それから、市民センターとしては枝光市民センター、去年の4月にオープンしましたスペースLABO、それから、ジ・アウトレットが平地のところにあります。居住空間というのは傾斜地ですから、山の傾斜にずっと上がっていくと住宅が広がっていると。賃貸であれ分譲であれ、マンション的にはかなりほかのところよりも少ない。どちらかという戸建ての住宅が多く、それから、高齢者、やはり製鉄が元気なときに家を造られて住み続けておられるような方がまだまだたくさんいらっしゃいます。

我々の地域なんですけども、やっぱり山坂が多いし、高齢者が多いということで、これは皆さんお耳にしたことあるかも分かりませんが、やまさかジャンボタクシー、地元のタクシー会社、光タクシーさんが軸になって、それから、地域と行政とが連携しながらその運営をしていっています。年々利用者も減ってはきていますけども、まだまだ運営については地域も一緒になっているんな課題を考えつつ進めていっているという状況があります。

それから、枝光は一、二、三の3つの自治区会があるんですけど、その自治区会を横串で刺した状態で、夢二まつりというのを毎年9月の第1土曜、日曜に開催しております。ただ、昨年はコロナの関係で、今年度は市制60周年の八幡東区の祭りとして、まつり八幡東2023の日にちと重なりましたので、式典だけで終わったという状況になっています。この祭りは、若い人、地元のPTA関係の人とか、それから、自治区会など、いろんな地域の団体が集まって地域を盛り上げようという形で進めていっています。

それから、高齢化に伴って地域もいろんな課題があるんですけども、今自治会のポジションとしてどういう活動をしているかという、もう便利屋なんですよ。市でもいろんな課題があると思いますけども、規模は別にしても、地元でもやっぱり子供から高齢者に関わるいろんな課題があります。それを一つ一つに分けるという人的な体力もちょっとありませんから、自治会、まち協等が相談の受皿になって進めていっている状況です。

平成26年ぐらいからになるんですけど、九州大学の志賀研究室というところと連携しまして、地域のまち歩きという活動をやっています。これは最初の取りかかりが、みんなで地域をよくしようというような考え方で一歩踏み出したんですけども、やる過程の中で、みんなで地域をよくするというのはやっぱり無理だろうと、意見もいろいろ違うし、環境も違うと。だから、今やっているのは、自分の町内をよくしようというふうに町内会で考えてくださいと、地域は

二の次でいいですと、まずは自分の住んでいる町内、自分がお世話をしている町内をよくしませんかという形に切り替えています。それはなぜかという、やはり総論ではなくて各論的な話ができる。どこの家のおじいちゃん、おばあちゃん、どこの子供など、具体的な話ができるというところがありますよね。

それともう一つは、大体1人の民生委員さんが3つぐらいの町内を担当しているんですけども、今までそれがリンクできていなかった。それで今いる9人の民生委員さんが担当している町内の町内会長さんとチームをつくりました。どういうことかという、町内会長さんは町内に加入されている方が基本的には対象ですよ。民生委員さんの対象は全てですから、やっぱりいろんな問題があつて手がかかるんですよ。だから、それはもう役割分担しましょう。町内の人、町内会長、それから、担当民生委員さんで何を考えていくかという方向性を共有して、そういうチームを地域の中で承認してもらったというか、理解を得た中で平成29年ぐらいからチーム編成をして、それを軸にしながら、自分の町内のいろんな課題をまずはチームで考える、そして、地域で共有するという活動を進めていっています。

それから、個人的な話になるんですけど、私は会長を受けたときから、辞める準備をしますというふうに皆さんに公言しています。どういうことかといったら、次につなげる準備をもう最初からしますよと、だから、次につなげるためにはやっぱり実態が分からないといけないので、実態をずっと調べていく。その中で得た情報とか、いろんな部分は、一応資料として年度単位でずっとファイリングしています。要は、パソコン等でデータの共有ができるようにしていっています。

その中で、まだまだスキルというところでは上がっていないんですけども、若い人たちの力を借りながら、今LINEがありますよね。LINEの活用が今自分の活動の中でも結構ウエートを占めているんですけども、若い人とグループができていまして、これは全部で14~15あるんですけども、一番多いもので大体58名程度で、若い人たちとLINE友達としていろんな情報交換をしています。2件ほどあったんですけど、1つは子供が家に帰ってこないということで、LINE仲間の保護者がLINEを上げました。それをみんな見ますよね。じゃあ探そうという形で、LINEをベースにしながら地域を探すときに、自分はここを探す、自分はここを探すとみんなが分かれて探していく。その探す過程の中でどんな服装をしているということもやり取りしながら、それが2回ほどありました。結果、無事子供さんが見つかって帰ってくることができたというところもあつて、それを今いろんな部分で生かしながらやっています。

もともと地域に入るきっかけというのは、地元の青少年育成会の活動がスタートでしたので、割とこの年になっても若い人たちとの接点がずっとつながってきています。その中でやっぱり次に渡すというのは、なかなか簡単にはいきませんよね。子供を軸にして、言葉は悪いですけど、媒体にしてという表現がいいか分かりませんが、やっぱり若い世代の人たちと話し合え

る場をつくるというところには、8割以上時間を使っているかなという感じがします。

年齢的には大体50前後の人たちが多いんですけども、地域のいろんな役割、ポジションの中にも、自治区会の役員の中にも入っていただいています。全部で22町会ありますよね。その中で2割強は今までつながってきた人たちが入ってきています。もちろん現役ですから、なかなか時間の取り方というのは難しいんでしょうけど、育成会の中にも、全然青少年じゃないんですけど、メンバーとしてはいまだに入れさせてもらっている。どっちかという地域のじい様というようなポジションでやっていっています。

一番大きかったのは、平成13年ですか、市が生活体験通学合宿という事業を各地区で受けてくださいということで、各区毎年2地区ぐらいが補助金ありきで一応やったんですけど、これをうちも2年やったんですけど、最初は子供は11人ぐらいで、大人が70人ぐらいいるんですよ。だから、大人の中に子供が埋もれてしまって、なかなか子供との接点というのがない、ただの大人の事業になってしまっていた。その翌年、2年目のときに、大人の数を減らすという見直しをちょっとして、2年終わって、我々地域と保護者と、それから、市民センターの館長と総括した結果、やはり子供を育てるといふ部分では、地域の教育力という切り口で大事な活動だろうということで、2年終わった後は自分たちの自主活動としていて、今年もやりました。一番手応えとして感じるの、その当時の子はもう30歳を少し過ぎていますよね。今、地域の中でいろんなことを話し合ったり、ちょっと焼きそば食べに連れて行ってとか、気軽に声をかけていただける、そういう関係が築けたと。全てじゃないんですけども、地域の中の一つの核となる活動として、まだずっと続けてこれている。

小学4年生から6年生までが参加の対象になるんですけども、今年は12名参加をしています。今うちの小学校は130名ぐらいですかね。そのうちの1割程度が参加をしてくれている状態で、さっきも触れましたけど、やはり子供との接点と、それから、子供の保護者との接点が新しく生まれるんですよ。そういうときにやっぱり地域の思いとか考え方とかというのを保護者に聞いてもらって、要はつながりの芽を膨らませていくような活動の在り方というのも大事にしつつ、代も替わって、先ほど言いました45歳から55歳までぐらいのメンバーが今軸になってやっています。自分も1週間、センターに泊まり込んで子供たちと一緒に活動しているんですけど、だから、やっぱり顔と名前が合う関係が広がるというのは、非常にお互いにとってプラスになる活動だろうというふうには実感しながら、これからも継続していくという状況でしょうか。以上です。

○委員長（永井佑君） ありがとうございます。

続きまして、多田様、よろしくお願ひいたします。

○参考人（多田政博氏） 皆様おはようございます。若松区第39区、花野路自治区会長をしています多田といいます。本日はお招きいただきましてありがとうございます。また、このような機会を設けていただきまして、本当にありがとうございます。着座にて失礼します。

私は、小学校、中学校、高校のPTA会長をしていました。あと、北九州市のPTA協議会でも専務理事とか副会長をしていましたので、北九州のいろんな小・中学校やいろんな地域に行かせていただいて、活動させていただきました。今おられる大久保委員とも当時いろいろ議論を交わしました。この経験が本当に今の経験に生きてると私自身は思っていますし、やはり人脈ですね、それを通じた人脈も今の部分で活用させていただいております。私自身、今自治会長もしていますが、まちづくり協議会の副会長とか、あとは保護司とか少年補導員とか地域のいろんな活動をさせていただいております。そのおかげで仕事が半分ぐらいしかできていないというのが実情であります。これをちょっと何とかしていかないと、両輪をやっていると、仕事や自分の家庭がうまくいかないことには成り立っていかないので、そちらのほうもうまくやっていきたいなと思っております。

自治会の紹介なんですけど、20数年前に小高い丘を造成した新興住宅地になります。ですから、いろんな地域からいろんな方が集まってできた、よくありがちな、二、三軒隣が誰か分からないような、そういう新興住宅地であります。世帯数は、市のホームページ上等では850くらいの世帯になっているんですけど、実際は介護施設があって、そこに住民票を置いている方とかがいるんで、実際の世帯数でいくと750前後じゃないかなとは思っております。

加入率が93から95%になります。ですから、北九州市の自治会の加入率から比べると非常に高い地域になっているかと思えます。人口で見ると2,500人ぐらいですかね。65歳以上の高齢者が12.5%ぐらい、後期高齢者、75歳以上が約5%、これも年々敬老行事等を見ていると、どんどん高齢化が進んでいる。ただ、ほかの地域に比べると、まだそこまで進んでいないのかな。ただ、新興住宅地の一軒家がほとんどなので、10年、20年後が本当にどうなるのかなと思っております。

あと、私は関わってきたわけじゃないですけど、自治会が発足してから2年ごとに役員が総入れ替えしていました。その役員もありがちなくじで、嫌なくじを引いたとか、そんな形で運営をしていたようです。10年ぐらい前からその部分に関わって、いろんな問題点を指摘しながら見ていっていたんですけど、全くそこに対して反応してくれる役員の方がいなかったんですね。というのが、ほとんど2年のやり切りなので、1年過ぎた、あともう1年で終わるみたいな、そんなイメージです。中には全く経験のない主婦が会長になったりとか。ですから、言い方は悪いですけど、うまくいくわけがないんですよ。2年終わったらまた新しく、2年終わったらまた新しくみたいな形で、全くその内容の引継ぎができていない。

あと、老人部会、子供部会が別々に活動していて、間を取るような方がいないとか。ですから、会長になる前は、私が中に入って青年部会というのを立ち上げて、間を取って一緒になってやっていこうということで始めました。いろんな意見を言っていると、その当時の会長から、私は今3年目になるんですけど、そこまで言うなら自分でやって変えてくださいよと言われたので、じゃあいいです、分かりました、やりますよという形になったのが2年半前ですかね。

ですから、今回くじとかじゃなくて、本当に何とか変えたい、やろうという形のメンバーが集まっていて、今役員がいますけど、全て現役ですね。普通、皆さんが自治会というイメージを聞くと、もう年配の高齢者や引退した方がやっている、何かそういうイメージがあるのかなと思うんですけど、当時6名から始まって、今9名いるんですけど、全て現役世代で、若い方は40代、私は今57歳ですけど、五十七、五十八歳が一番上ぐらいですね。そんなイメージでやっています。そのメンバーも、先ほど言いましたPTA絡みの関係でお願いして、じゃあ多田さんがやるんなら一緒にやっていますよという形の方が入ってくれて、2年半前からやるようになりました。

当時、私はいろんな問題点を思いついていたので、そこに対して入り込んでいって、まず、未加入の方が何で脱会したのか、入らないのか、その取組をしました。一軒一軒回って、何でやめたんですか、何で入らないんですかという、そういう話をどんどん聞いていきました。そうすると、やっぱりいろんな部分が見えてきました。班長、役員の仕事がしたくないとか、仕事量が多いのもうやりたくない、もう二度と関わりたくないとか。あとは自治会に言っても何もしてくれないとか、何をやっているか全然分からないですよ。お金だけ取られて何をしているのか分からないとか、いろんな部分が見えてきたんで、そこから、その意見を基に取り組んできました。

まずやったのが一斉メール。先ほどお話をちょっとされていましたがLINEも考えたんですけど、費用面だとかいろんなことを考えて、一斉メールに取り組みました。これも全国いろんな業者に聞いて資料を取り寄せたんですけど、一番いいのが行政も使っているという熊本にある業者で、協賛会社を見つけていただければ我々は無料で使えるという、そういうものを今使わせていただいております。

これはどういう部分で発信していくかということ、回覧板は回覧板で今従来どおりあります。よく意見としても回覧板は要らない、市政だよりは要らないというふうな意見が多いんですけど、それはそれで今までどおりやっています。一斉メールは、住民に登録をしていただいて、ほとんど私のほうからですけど、いろんな情報を発信する。回覧板は瞬時の情報というのは伝わっていかないんですよ。来月、再来月こんなのがありますよ、参加してください、出てください、こういうイベントがありますよとか、先の情報を回してしまうには非常に時間がかかります。この一斉メールというのは、もう普通のメールと同じです。瞬時の情報が行くんですよ。ですから、自治会内で起こった不審者情報とか、あとはごみのルールが守られていないですよ、こうしてくださいとか。あと、私のほうにも週に数回いろんな電話がかかってくる。猫がいなくなったから探してください、犬がいなくなったんで探してください。でも一斉メールでばっくと行くと、結構皆さんが情報を共有してくれるので、やっぱりそれで見つかったりしているんですよ。

今、2,500人ぐらいの人口の中で、登録しているのは600人ぐらいなので、まだまだちょっと

少ないのかなとは思っています。2年半でやっとここまで来たかなという感じですかね。市のほうからいろんな助言をいただいていますけど、今後はLINEアカウントをつくって、回覧板やほかのいろんな情報をどんどん発信していきたいなと思っています。一斉メールはちょっと情報量が限られていて、できないところがあるので、将来的には回覧板をなくすまでのそういうITですかね、そういう分を使いながらやっていきたいと考えています。

ただ、やっぱり高齢者がなかなかこれとかについてこられないですね。持っているんですけど、宝の持ち腐れで、言うのと、いやいやもうそんなのと言うんで、自治会内で今年も1回開催しましたけど、スマホ教室ですね、市のほうでやっていただいていますので、それに応募していただいたり、今後は簡単な部分であれば、数か月に1回ぐらい、我々が自ら高齢者向けにスマホ教室をやりたいとか、そういうのも考えています。

あとは、もう本当にいろんな取組をやっていて、あと、除草とか、そういう部分というのはもう行政に任せるとするのが一般的には当たり前と言われているんですけど、我々は自らプロ級の道具をいろいろ買っています。マキタとかのですね。それを使って、我々で、町内の通学路などの草刈りをしています。もう私も本当にプロ級の腕前になりました。それぐらいやっています。声をかけると、結構来てくれるんですよ。やっぱりそれが、言い方はあれですけど、我々が動き、活動しているところを住民に見ていただく、そして、こんなことまでしてくれるんだな、じゃあ手伝おうかという、そういう意識づけで、そういう見てもらう動きもやっております。

あと本当に困ったことがあったら、何でもいいから言ってきてくださいよと、私の携帯電話も全てオープンにしています。常に回覧板で出していますので、先ほど言ったいろんな相談、いろんな情報が入ってきます。ここは危険なので何とかしてほしいとか、カーブミラーは何とかならないんですかとか、そういう部分、役所のほうもやっぱり個人からいろんな電話が来るのはなかなか対応できないと言われているので、やっぱり組織として、住民が言われていることについて、私が確認して話をし、じゃあ私のほうが区役所に行きましょうとか、そういう動きもやっております。

あとは、とにかく、皆さんに自治会自体が何をしているかというのが見えないことには、何をやっているか分からないんですよ。あとはお金の部分、会費の部分も、これも班長さん、役員さんの仕事量が増えるというので、要は町内会のほとんどが自治会費を皆さん現金で集めていると思うんですよ。これも今の時代、なかなか昼間は家にいない、なかなか会ってお金をもらえないというケースがやっぱり多いと思います。この仕事が非常に負担になると聞きましたので、この部分を去年から口座引き落としにしました。95%ぐらいの方に賛同していただいて、口座情報をいただいて、それを我々が登録して、口座引き落としという形に変えました。非常に、周りから見ると我々も簡単にできて手間がかからず、いいのかなと思ったんですけど、住民は本当に手間がかからないですね。もう口座からぽんと落ちるといって、ただ、我々が、こ

の650~700の方の口座情報を全部入力しないといけないので、すごい時間がかかりました。それが手間になるのかな。ただ、住民の方にとっては楽で、班長、組長さんにとっても非常に手間が省けるといっているので、いい動きになったのかなと思っております。

自治会に入っていない世帯に対して、もう一度説明して対話もやったんですけど、なかなかそれでも入ってくれない方もおられますので、今後は、自治会費じゃなくて、住んでいる以上お金がかかるんですよ、皆さんのお金でやっていかないとできないですよ、ですから、自治会に入らなくても結構です。共益費名目としてのお金はいただきますよという形で、来年度からはその動きをしていきたいなと考えております。

いろんな取組をやっていて、まだまだ問題点もいろいろあるので、ただ現役なんで、昼間やっぱりほとんどみんな動けないんですよ。行政の会議はほとんど平日の昼間にやるんですよ。ですから、なかなかここはみんな行けないと言っているのも、私なんか自営なんで何とかやりくりをしているんですけど、そこは今後の課題でもあるかと思えます。

あとは、今我々が思っているのは、現役世代でもやれる自治会ですかね、それを何とかもっともっと改善しながらやっていきたいなと思っております。

まだまだ課題があるので、一つ一つ時間がかかりますけど、やっていきたいなと思っております。以上となります。ありがとうございました。

○委員長（永井佑君）ありがとうございました。

続きまして、古賀様、よろしくお願ひします。

○参考人（古賀由布子氏）おはようございます。Say!輪代表、古賀と申します。私たちSay!輪というのは、今市民団体でやっております。座らせていただきます。

私の自己紹介ですけれども、私は岩手の出身で、主人が転勤でこちらに来まして、もう10年ちよつとになります。そこから、こちらで子供を産んだものですから、お母さん同士の親子ふれあいルームとかがありまして、そこでの勉強会とか、あと母親の勉強会みたいのが北九州市では結構盛んに行われていましたので、そこで知り合ったメンバーと、このSay!輪という団体を結成しました。初めは、このお母さん同士のグループで自分たちが勉強したいことをいろんなテーマを集めて、いろんな方を呼んで話を聞こうというテーマだったんですが、2011年に東北の震災がありまして、私の実家は大丈夫だったんですが、やっぱり知り合いとか親戚とかで被災した者がおりまして、そこへの支援というわけでもないんですが、いろいろやり取りをしようということ私たちのグループで始めて、そこから防災に関わるようになりました。

この防災については、最初はただ勉強会をしようという感じだったんですが、その中で気がついたのは、私は岩手の出身だったので、もう小さい頃から防災訓練が当たり前のように行われていて、もう刷り込まれているような状態で大人になっているんですよ。ただ、北九州市はやっぱりあまり災害がないせいなのか、あまり災害に対するイメージが湧かず、防災ということに対して、第三者的に見ているみたいな感じの姿勢がすごく見えたので、私たちの勉

強会でも発見が多くありましたので、そこからだんだん勉強会が増えていくようになりました。

今私たちの活動の中心となっているのは、その防災の勉強会、防災カフェと私たちは言っていますけれども、この防災カフェと、あとトーキングカフェというのをやっています。この防災カフェについては、なぜカフェという名前にしたかという、私も含め私たちのメンバーには誰も防災のプロがいないんですよ。消防員であったとか、何か行政でそういう仕事をしていたとかはなく、全くの一主婦が始めていることなんですね。私はこれを売りにしていて、災害は結局、老若男女全然関係ないところに降ってくるもので、恐らく災害に遭って一番いろんな動揺があったり、一番いろんな手を打たなきゃいけないのは、一般市民の私たちだと考えて、一般市民から見た防災を考えるということを強みにして、今までやってきております。おかげさまでそれが多分受けたんじゃないかと思うんですけど、難しい勉強みたいな、断層の成り立ちであるとか、線状降水帯はどうなってどうなるみたいな、そういうことよりも、電気が消えたらどうしようとか、子供が幼稚園に行っているときに災害が起きたらどうしようみたいな感じの方々からニーズがすごく多くて、その方たちと一緒に考えるという、講座ではなくてワークショップという形の講座をずっと続けています。

もちろんお母さんと親子連れの方の講座も多いんですけど、あとは例えば生協とか、そういう女性同士で集まってつくっているようなグループとか、そういうところにも多く呼ばれるようになりました。あとは、介護福祉施設とかですね。福祉施設の防災というのはまたいろいろ決まりがあって、私たちもよく分からないところはあるんですが、話し合うことが防災訓練になるということをお話ししながら、ファシリテーターのような役割が入っていますので、そこでもお話をすることができていると思います。

あと、私自身は、今北九州市の危機管理室でやっております、みんな de Bousai プロジェクトというものにファシリテーターとして入っております、いろんな地域で防災と防災計画をつくるお手伝いをさせていただいています。そんな感じで地域には十分関わっています。

この地域と防災のことをやって地域と関わると思うことは、やっぱり先ほど高齢化という話がありましたけれども、やっぱり地域によって高齢化がすごく進んでいるところとお話をする、大体町内会長さんがばあっと集まってきてお話をするんですが、だんだん話が具体的になればなるほど、行政は何をしているんだと言われて、そのまま議論が先に進まないんですよ。皆さんで考えることなんですよというか、例えば東北の震災であっても、その前の阪神・淡路大震災であっても、共助の必要性がすごく叫ばれて、御近所の方を救ったのは御近所であったという話がすごくあるという中でも、やっぱり具体的な話になってくるとだんだん難しくなってきたり、行政はという話になると、そこでもう思考がストップしてしまうところの壁をすごく感じる場合があります。自分たちで何とかしようという方たちもすごく増えてはいるんですが、そういう壁にも阻まれるというか、そういう壁に悩むことも結構あります。

あともう一つは、女性の話なんですけれども、地域の防災会議とかに出席すると、町内会長さんがほとんど男性ということがすごく多いんですよ。そこの地域地域でいろいろあって仕方がないと思うんですけども、ただ、じゃあ防災訓練をしましょうという、実際にすごく動いてくださるのは女性ばかりだったりするんですよ。何でかなとそこはいつも思います。この前、その動いていらっしゃる女性の方が、きっと本当に災害が起きてもこうなるよねって、私にぼそっと言ったんですよ。ということは、炊き出しとか、何かいろんなお世話は女性がすることになるんだろうかと地域の方々が思っている。だけど、意思決定の場には、なぜか女性が入っていない。そういう現実もあるので、そこは何とかしたいなと思います。

前に別の地域でやったところで、男性と女性が半々ぐらい入った会議に参加したことがあったんですよ。そこは何だか物すごく明るくて、すごく建設的な意見が出て、もちろんいろんな雑多の意見もありましたが、それはちょっと無理よというような意見もありましたけれども、とても楽しく皆さんが防災について取り組まれていた雰囲気があったので、とてもいいなと思いました。

あと、私たちは防災のことを学ぶときに、先ほども言いましたけども、一般的な視点で、難しいことを難しくはあまり言わずにとっているんですけども、例えばそこに行政の方がぼんと入って、行政ではこんなことをしていますという、割と好意的にというか、すごく前向きな形で入る場合があるんですよ。一方的に行政からの防災講座ですみたいな形で構えて取られると、恐らくうちに帰ったら忘れちゃうんだよねという人がほとんどなんですけど、そうやって話合いの場に行政の方も参加された会議というのは、すごく建設的な意見が出て、住民の方にも残りやすいというのが感覚としてあります。

あとは、家庭教育学級にも時々呼ばれて行くんですけども、学校では、小学校4年生になると地域のことを学ぶというカリキュラムがあるんだと思うんですが、地域の方のところに行っているいろいろお話をするとか、その中に防災のことも組み込まれているみたいなんです。私は防災士を持っているんですが、この前私が行って、防災士ってどういうものかというのを話して、その後子供たちが自分たちで地域を歩いて、防災マップみたいなのを作るというふうなことをやっていたんですが、そこに地域の方が入っていかなかったんですよ。そこで、校長先生に、地域の方とは御一緒にされないんですかと、一緒にやられたら、地図とかも見やすいし、地域の方もここが危ないというのが分かるかもしれないから、一緒にされませんかって言ったら、ああそうですねって言われて、そのままだったんですよ。なかなか連携が取れていないのかな、取れたらきつともっといいものになるのかなというのが感想でした。

ただ、それを教育現場に求めるのは多分難しいんだと思います。学校は物すごく忙しそうなので、じゃあ地域の方が一緒にこうやろうよっていうふうに言ったらいいなかな。でも、地域の方もお忙しいし、そこの真ん中に何かあるものが、つなげられるものがあるといいなと思ったこともありました。

あとは、私たちは防災のことを言うときに、さっきも言いましたけども、勉強ではなくて一般的な感覚でというのをすごく大切にしている、子供たちの生きる力をつけるために、防災のことを学びましょうということがあります。私が東北のお母さんたちとすごくやり取りをしていた中で、とにかく私たち北九州市のお母さんたちもたくさん東北のお母さんを助けたいと思っているけれども、どうすればいいかわからないんだけど、どうすればいいと思いますかというのを、今考えればちょっとひどい話だったかなと思うんですが、地域の東北のお母さんに尋ねたら、逃げることを諦めないでほしいというふうなメッセージをもらったんですね。すごく災害でみんながパニックになっているときに、助けてということはすごく苦しいけれども、自分と自分よりもまず子供の命を守るために、助けてと言って何とか逃げてほしいということ伝えてほしいというのを言われたんですね。

これが私たちのワークショップの基準にもなっているんですけども、助けてって言い合える関係をつくるということ、じゃあどうすればいいの。子供同士で考えることも大事ですし、あとは地域で助けてって言い合える関係をつくることは大事ですというふうに皆さんにもお話しします。そうすると、やっぱり地域の方でも、高齢化率が高いところは、助けてって言おうとは思いますが、そこは民生委員さんに頼ろうかなみたいな、やっぱりそういうふうに役割を持った方に頼りがちになってしまうというか、役割を持った方は負担ではないだろうかと思ったりもします。地域みんなで、その助ける輪をつくっていけることが理想なんだろうけれども、私もそこはどうすればいいのかなと日々思いながら、皆さんとお話ししながらやっています。

あと、防災というふうに言ってしまうと、どうしても人は集まらないんですよ。防災講座をやりますとか、固く考えられてしまって、だから、この前、イオンモール八幡東でやったんですけども、防災祭りというか、子供たちを巻き込む形の大きなイベントに私も参加させていただいたんですけども、そういうのがたくさん増えていくと、子供は恐らく防災に関心を持って、それがだんだん育っていくと文化になっていくだろうなと思うので、そういう機会がいっぱいあればいいなと思います。そこに例えば、なかなか何というか、若い方がやることにストップをかける方もやっぱりいらっしゃるんですね。そんなことはできないみたいな感じで、もっと乗ってもらえたらいいなとも思います。難しいことではあるかもしれませんが、若い人がこんなことをやりたいという意見を言ったときに、いやいや、それはというふうに言って止めてしまうと、なかなか前に進んでいかないなと思うこともあるので、例えば防災で、いつもの防災訓練とは違うけど、こういうふうな面白いものもやってみませんかというのに皆さんが乗っていただけるようになるにはどうすればいいのかな、話し方かな、持っていく方かなとか、いろいろ考えながらやるような日々です。

防災は、まちづくりだと思っているので、こんな感じでずんずんずんずん進めていければいいなと思っています。以上です。

○委員長（永井佑君） ありがとうございます。

それでは、質疑応答を行います。なお、委員からの質問は簡潔、明瞭をお願いします。また、お越しの皆様は、可能な範囲で回答をお願いできればと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。それでは、質問はありませんか。中村委員。

○委員（中村義雄君） 委員長、進め方ですけど、普通お伺いするときは一括で質問するじゃないですか。多分なかなか難しいと思うので、1人ずつのやり取りを3人にやっていいですか。

○委員長（永井佑君） それでよろしいですか、3名の方、お一人ずつやり取りをさせていただくということで。よろしくをお願いします。中村委員。

○委員（中村義雄君） どうもありがとうございました。私も自己紹介させていただきまして、私は小倉北区で、多田さんと大体似ていて、小学校、中学校PTA会長、保護司、うちは足原校区という小学校区なんですけど、自治連合会長とまち協の会長、社協の副会長と、あと町内会長を15年ぐらいやっています。

非常に参考になりました。どうもありがとうございました。

古賀さんは、うちの校区の避難訓練に来ていただいて、どうもありがとうございました。

ちょっとお一人ずつ幾つかお尋ねしたいんですけど、まず、宮地さんのところで、実は今、うちの校区で有償ボランティア事業というのを準備してしまして、無償のボランティアはなかなか頼みづらいから有償でという中で、有償でなかなかできないのが送迎なんですね。送迎を資格なくやると白タクの法律に引っかかって、ニーズはすごくあるんだけどできないというので、止まっているところなんですけど。やまさか乗合タクシーをやられているというところで、私のところには足立山という山があるので、やっぱりそのニーズが高いんですけど、したいという人はいるんだけど、実際やったら乗る人が少ないとか、これはよその泉台校区とか西鉄さんがやろうとして、それで駄目だったんですけど、実際にやられていて、一定程度の乗る人を確保しないといけないと思うんですけど、それがないと運営できないので、その辺の収支とか、さっき乗る人が減っているというお話でしたが、その持続性とか、その辺についてのことをお尋ねしたいのが1つ。もう一つ、民生委員さんと町内会長さんのチームというお話がありましたけど、これはうちの校区だけなのかどうか分かりませんが、民生委員さんはチームを組もうとすると、守秘義務をかなり前面に言われるんですよ。あなたたちの情報は頂戴と、私の情報は守秘義務があるので出せませんというので、なかなかうまくいかなくて、うちは町内会長じゃなくて福祉協力員さんとできるだけチームを組んでもらいたいと思うけど、ちょっとハードルが高いなというのがあるんですけど、その辺は民生委員さんと町内会長さんのチームを組むときに、どういうふうにするとうまくいくのかなという、ちょっとコツみたいなことを教えていただければなと思います。以上です。

○委員長（永井佑君） 宮地様。

○参考人（宮地久男氏） やまさかジャンボタクシーのほうなんですけど、もう20年ほどになり

ますよね。当初はやっぱり日に450人ぐらい利用者がいたんですけど、今大体250人ぐらいですかね。だから、半減に近い数字になるんですけど、やっぱり山坂ですから、下のほうにある商店街の近くの方はやっぱり利用しませんよね。歩けばすぐだし、坂もそんなにない。ただ、やっぱり山の高いところの人たちというのは足がないと非常に難しいということで、利用者の減少に伴ってどうするかという話は必然的に出てくる話でもあるし、年に4回ほど定例会というか、会議を持って、その中でキャンペーンをやっています。これは何かといたら、少し割安なチケット販売というか、地域と連携する中で3,000円のチケットにプラス2枚つけたとかいう格好の販売をやって利用者を上げると。運営主体の光タクシーさんのほうは、やっぱり大学と色々なリンクをしながら、フリーパスといいますか、今はどっちかというチケットでやるのがまだ主なんですけど、フリーパスを発行して、1か月でまた新たに更新とかいう格好でやっていたり、以前は西鉄バスとバッテリーができなかったところを、西鉄さんがちょっと変わってきたのかなとか、少し見方、考え方に柔軟性が出てきたのかな。枝光本町という西鉄のバス停があるんですけど、そこにジャンボタクシーの時間表とかをデジタルで置いてくれたり、連携が取れた形で運営するために、自分たちだけじゃなくて、交通政策の中でつながっている会社との連携なんかも、どんどんどんどん積極的に進めていってもらっているところがあるので、地域のほうとしてもこれがなくなると地域の大きな課題になりますから、ここまで持っていききたいというところの部分で、まだどちらかというところの状態でも維持できていくような運営の仕方に特化した話合いというのは大事にやっています。

それと、もう一つは、民生委員さんと町内会長の連携なんですけど、先ほどもちょっと触れましたけど、九州大学の志賀研究室と連携しながら、地域の色々な課題を、空き家があるとか、空き地があるとか、管理されていない状態であるとか、そういう実態をずっと毎年歩いて確認をしてもらっています。そこで上がった中で町内で解決できるだろうというもの、それから、地域で考えられるもの、これはちょっと行政にお願いするということで、行政のほうにも、4年ぐらい前から、毎年行政に対してデータを渡して、検討会をやっているんですよ。ここは所有者も分かりませんが、地域としてもここを何とかしたい、危ないところがあるとかというところも含めた中で、去年はのり面のところにも、本当に台風が来たら崩れて飛んで、周りに害を与えるようなところがあったんですけど、その家は略式代執行いただいて、それもその年に頼んでやっていただくという話ではなく、毎年変化を見ていながら、その打合せをやっているんですよ。大体、6月に地域を見て回る。そして、見て回ったやつをまとめて、10月ぐらいに、まず、すぐ要望として上げる分については区役所のほうに上げて相談をする。それはお互いが共有してデータとしては持っているんです。だから、言葉は悪いですけど、担当者が替わったからちょっと分かりませんという話がない。台帳管理というか、そういう管理はずっと今やっています。

やっぱり町内の単位で、町の方が自分の町内をよくしようというところを軸にしながら進め

る中で、やっぱり町側も、知らないところはもうはっきり、いやこの人は町内会に入っていないから私は分かりませんとかいう話も結構出てくるわけですね。そういうときに、地域としてその町内に対する課題対応というのを考えたときに、やっぱり一人一人がばらばらでいろんな活動をして、もうたかが知れているよねと。だから、チームでつながって物事を一緒に考えながら解決する方向に持って行きましょう。その中に個人情報というのがあります。個人情報については、どうでしょう。基本的には、個人から情報を預かるときの使い方というのをちゃんと明記しているので、だから、要は個人情報というのは自分の個人の情報ですと。ただ、1つ言えるのは、先ほどの防災じゃないですけども、何か事が起きたときに自分を守る情報でもあるんですね。そう考えたときに、その情報をやっぱり生かして使ってもらうことによって、要は命のリスクを下げることもできるしという話になるので、あとは使い方の中で握れるかどうかという話になると思います。そこは民生委員さんともちゃんと話をしながら。チームですから。1人の民生委員さんがいます。個人情報を持っています。3人の町内会長さんがいます。この4人で話すときはAさん、Bさんなんだよね。個人名は出ません。Aさんというところでこんな事象がありました、それをどうするかというような課題の協議をします。ただ、民生委員さんと町内会長さん、先ほど言いましたが、八幡東区は福祉協力員さんというのは町内会長さんが兼務しているんですよ。だから、その立場の中で、町内会長さんは町内に入っている人の情報について、御自身にリスクが起きたときにはこれを活用してサポートできるように動きますよという了解は取っています。

だから、民生委員さんも100世帯あったら100世帯をみんな見るというのは、昔はやっぱり気をつける人というか、気にしとかなないけん人というのは少なかったけど、今は1つの町内の中でも多いですね。そのときに、優先度をどうつけるかというのが必要なところでもあるわけですよ。行けないという事象も幾らでも出てくるわけですから、そのときにやっぱりチームを組んで、連絡を取って、あそこの家は新聞紙がたまると、ちょっと見てくれないだろうかとか、連絡を取り合いながらやっていく。情報がつかめないときには、町内会に入っていないけれども、比較的、八幡東区は戸建てが多いという話をしましたけど、昔から住んでいる人の情報というのは、ある程度隣の人とかというのは持っている場合が多い。そういうところの情報を集めていって、最終的には行政にお願いするのもあるし、最近あったのは、結論から言ったら空き巣なんですよ。窓ガラスが割られている。家が空き家です。ただ、親族は月に1回か2回ぐらいは来ているみたいだけど、町内の人が見つけて、ガラスが割れている、割れ方がおかしいよねと。上のほうから見たら、やはりちょっとおかしいよねという話なんかがあって、隣の人たちに、ここの所有者に連絡が取れないんですかと言ったら、いや、分かりますという話だから、そちらから連絡を取ってもらったというところもある。ただ、データそのものは何もないんです。だから、それはもう確認するときに連絡し合うとか、だから、連携という部分については、個人情報はお互い守秘義務がありますと、だからそれは全部負担をするという話じゃ

なくて、使うときにはやっぱり使わないといけない情報というのはあるわけですから、そこをちゃんと共有する。その前提で一応出してもらおうというところの話をやっぱり少しきっちりとして押さえていける活動が今できています。というところでしょうかね。長くなりましたけど。

○委員長（永井佑君） 中村委員。

○委員（中村義雄君） どうもありがとうございました。非常に分かりました。

多田さんに3点お尋ねしたいんですけど、お話を伺って、私の中で、業務の簡略化と活動の見える化を柱にいろんな工夫をされていると理解はしたんですけど、その中で、私もいろいろ町内を回っていたら、今どき回覧板を回さないといけないと言われるんですけど、御説明するには、メールとかでできないのかという話をと言われるんですけど、そういうのをやっていない人もいますので、仕方ないですという話で、全然諦めていたんですけど、今の御説明を聞いて、そういうふうに一斉メールとかで実際にできているんだなというのをお聞きしたので、非常に参考になって、今後その辺は勉強して、回覧を回す人と、もう一斉メールで流す、LINEになるのかもしれませんが、それを2つに分けて、そうすれば回覧を回す数が減ってくるからというのはすごく思ったんですけど、それを導入するのにどういう工夫をして、例えばチラシを作って、LINEのQRコードか何か載せて、協力する人はこれを読み込んでくださいみたいな感じにするのか、何か一軒一軒に説明していくのかとか、その進め方についてちょっとアドバイスをいただけたらと思っています。それが1点です。

それと、町内会費の口座引き落としの件も、今ちょうど後期の町内会費を集めていて、あれがまた大変なんで、非常にすばらしいなと思うんですけど、これをするときの何か工夫というか、口座を教えたくないとか、そういうのがあるのかなとか思っていたんですけど、意外と95%と高いので、こういうことを工夫していくと、この話が進みやすいよとかというようなアドバイスを教えていただけたらと。

3点目は、共益費の話なんですけど、うちの町内も、せめて防犯灯の電気代を取ろうと思って、防犯灯の電気代を出して、うちの町内の世帯数で割って、その分は出してよみたいなのをやろうかなと思ったこともあるんですけど、ちょっとへこたれてやめたんですけど。その共益費という考え方はもちろん理解できるけど、じゃあ未加入の人から根拠は何なのかと言われたときに、ちょっと困るなど。さっきの電気代とかは割と具体的ですけど、どういうふうに共益費というのを説明して、それでもやっぱり嫌だという人に対してどういう整理をするのかなと。それでも嫌な人は仕方ないという整理をすると、逆にそれでいいよと言った人は何でとかというようなことが起こるかなと思いますので、そういうのをどういうふうに理解していったら、どう説明されるのかなというのを教えていただきたいと思います。以上です。

○委員長（永井佑君） 多田様。

○参考人（多田政博氏） はい、ありがとうございます。

まず、一斉メールについてですけど、当初は回覧板しかないんで、回覧板に説明書きと内容

をつけて、QRコードをつけて出したんですけど、当然こちらで誰が登録しているとか、管理が全てできるので、どこの誰がしたというのはすぐ分かるんですよ。やっぱり非常に少なくて、とにかくもう言っていく、回覧板で毎回毎回流していく、もうこれを2年半続けました。それで、じわじわじわじわ数が増えて、今600を超えたという形なので、やっぱり常にやっていくしかないかなという、何でもそうだと思うんですけど、やる側の意識は高いんですけど、受ける側、見る側というのは、はあみたいなきもちだと思えます。だから、それを繰り返していくしかないと思えますよね。僕は何でもそうだと思うんで、やる側はもう本当に熱が上がっているけど、見る側、受ける側は、はあみたいなきもちなんで、これも繰り返しやった結果が今それぐらいの数でという形ですね。

ただ、登録したら、誰が開いたか、開いていないかとかも見れるんですよ。見ると100数十名は見えていないですね。だから、登録さえすれば、今いろんな情報があるんで、皆さんもいろんなLINEやメールが来たりすると思うんですけど、しょっちゅう来るものは見ないと思えますよ。ですから、我々としては重要な情報だけを送るといって、そこを心がけてはいます。

続いて、口座振替ですけど、先ほど言いました95%ぐらいの方は、楽でいいねという形ですけど、残りの約5%は何で口座情報を出さないといけないのか、個人情報を出さないといけないのかとか、そんな意見がやっぱり来ました。中には、そんな自治会なんかやめるといって、やめられた方が数名いました。あとは、振込をするので口座番号を教えてくださいとかですね。その方はしっかりすぐに振り込んでくれました。これも全てにおいて同じだと思うんですけど、100人いて100人が同じ意見というのはまず絶対ないんで、反対意見は絶対あるんですよ。議会でもそうだと思いますけど、反対の意見は絶対にあるんで、それをしっかり受け止めて、ただ反対だからそれでやめますよというわけにはいかないんで、受け止めて説明をして、でも、それだったらもうしょうがないですねという形にはなっていくかと思えます。

これは非常に賛同してくれる方が多かったんで、楽な方向で進みました。ただ、やる側は、先ほど言いましたように、むちゃくちゃ時間がかかります。大変です。普通、私は保険の仕事をしていますけど、保険の口座引き落としなんか当たり前ですけど、そういったものはそれを業務として専門でやっている方がいるんですよ。それを仕事以外の部分で我々がやるというのは、もう非常に大変です。口座情報は個人情報が高くないものなので、我々役員数人だけでしっかりそれをやっていくというのが本当に大変だなとこの1年感じてやりました。

あと、共益費についてですけど、これも先ほどおっしゃられました電気代、街灯の防犯灯ですね。この電気代が我々のところでは年間40数万円かかります。あと、今結構かかっているのが、ごみのネットですね。これもかなり値上がりしまして、1枚3万円近くします。これが1つの組、班に2枚ずつなんですけど、多いところは4枚ありますけど、非常にお金がかかるんですよ。当然劣化してきますので、ファスナーが壊れたりとか、ネットが破れたりするんで、これが年間50~60万円かかっています。

あとは赤十字とか赤い羽根募金で、皆さん個人的に募金されていると思うんですけど、我々が総会資料に1世帯幾らという形で載せても、自治会として寄附しているんですよ。ですから、そういうのが年間50~60万円ありますので、そういうのを足して、いろんな部分を足して計算して割ると、1人当たりこれぐらいかかるんですよというのを明確に出しています。よく、自治会に入っていないくて、お金を払っていないくても、ごみ当番はしていますよと言うんですね。いや、ごみ当番をするのは当たり前ですよ。ごみが出て自分たちでやるのは当たり前です。ただ、維持管理は我々自治会がやっているんですよ。ごみネットにしても我々が買って提供しているんですよという形の一つ一つの説明ですね。防犯灯の電気代がかかるなんて、多分誰もそこまで知らないと思うんで、もう一つ一つ説明をして、これだけの費用がかかる、これを我々自治会に入っている方のお金で運営しているんですよ。ですから、入らないからお金を払わないというのはおかしいですよという話を持っていっています。

ただ、これでもやっぱり納得していない方もおられるんで、それを今後どうするかは、ちょっとまた問題になってくるかなとは思っています。以上です。

○委員長（永井佑君） 中村委員。

○委員（中村義雄君） すみません。もうちょっと詳しく、口座引き落としの口座番号をもらうのに、多分回覧でもらうわけにはいかないんじゃないかなと。

○委員長（永井佑君） 多田様。

○参考人（多田政博氏） これは、封筒を作って封をして、まずは班長さんから手渡しで我々が頂く。頂けない方は個別に訪問して、我々がそこは手渡しでという形で、全て手渡しなんですよ。ですから、ポストに入れるとか、そんなのは絶対駄目ですよ。ですから、この部分を含めて手間がかかりました。

○委員長（永井佑君） 中村委員。

○委員（中村義雄君） それと、共益費のことで、未加入のところにポスティングするだけなら簡単だと思うんですけども、その人たちに説明とか説得とかをすると、すごい労力がかかると思うんですけど、それはやっぱり個別に説明とか。

○委員長（永井佑君） 多田様。

○参考人（多田政博氏） 当初はしてはいたんですけど、これは時間的に結構かかるので、ポスティングをしたりとか、あとは今まで3回ぐらい意見交換会をしましょうという形の案内を出したりとか、様々な動きをして、いきなりこの数か月でこうしましたよという形には持っていけないんで、今まで何回にもわたってやって、結果的にはこうしますよというふうに持っていきたいとは思っています。

意見交換会も来ていただいて説明すると、そうなん、じゃあすぐ入るよという形で、その場で四、五世帯に入っていたりはしていますので、やっぱり対話して説明して理解してもらえというのが、それがやっぱり一番重要じゃないかなとは思っています。

○委員長（永井佑君） 中村委員。

○委員（中村義雄君） どうもありがとうございました。参考になりました。

最後に、古賀さんに1点お尋ねしたいんですけど、私の足原校区は防災に力を入れているほうだと思います。みんなde Bousaiもモデルからやっているし、避難所運営も今もまち協でやっていますので。何でかという、防災という論点はみんなに関係がある論点なんで、うちは関係ないよという話にならないので、これは切り口として大事だなと思ってやっていますんですけど、いざ避難所を開設したらゼロとか、高齢者等避難とか出るじゃないですか。避難所を開設しますよね。みんな避難しないですよ。これはうちの校区だけじゃなくて、北九州市全体の問題なんですけど、今防災のいろんな活動をされていて、もうちょっとこんなふうに工夫したら、もっと住民の方に危機意識が浸透するんじゃないとか、避難してくるんじゃないとか、何かそういうアドバイスがありましたら、お尋ねしたいんですけど。

○委員長（永井佑君） 古賀様。

○参考人（古賀由布子氏） 私たちもそれはすごく悩むところなんですけれども、大体参加してくださった方たちに、もしここで緊急避難速報とかが出たら、あなたは逃げますかというアンケートを取ると、ほとんどの方は逃げないと言うんですよ。じゃあ、レベル4ぐらいになったら逃げますかと言ったら、逃げない。どうしますと言ったら、家にいる、家の中でじっとしとくと言うんですよ。ハザードマップとか周囲のやつを見て、家が安全なところだと分かっていたら、そこに籠もる準備さえしていれば、私はそこで何とか3日間もつように頑張るといふのはありんじゃないかなとも思います。ただ、明らかに自分は今危ないところにいるんだという認識もなく、避難する気はないというのはどうしてかって、どうすれば避難すると思うと言ったら、目の前に誰かが来て、逃げろと言ってくれれば逃げるといふような、みんなそういう他力本願な感じなんですよね。そこからやっぱり意識を変えるべきなのかなとは思っています。そのときは、自分で考えることは大事じゃないですかというのを時々言うんですが、そのためにいろんな事例を出したり、いろんな勉強会をすることで自分で考える癖をつけましょうというのを何回も何回もやっています。それで変わっていく方もいますし、特に子供なんかは、誰かがやってくれるんじゃないかと、自分でどうすればいいか考えようねと言うと、すごく素直に受け取ってくれるので、そういうところから渦が生まれてくるのではないのかなと思います。残念ながらというのはおかしいですけど、少しお年を召した方にそういうお話をしても、なかなか聞いてもらえないんですけど、小さいお子さんが、じゃあ自分で考えて動くことを考えようというようなムーブメントが起きると、それに引っ張り込まれる大人はいるんじゃないかなと思っています。

○委員長（永井佑君） 中村委員。

○委員（中村義雄君） ありがとうございました。

○委員長（永井佑君） ほかにございませんか。どなたからでも結構です。大石委員。

○委員（大石仁人君） ありがとうございます。本当に参考になるお話ばかりで、私も中村義雄委員と同じ校区なんですけども、今子供部会長をしていて、町内でも子供会長をしていて、僕も子供を軸にコミュニティーを再構築できないかなといろいろ取組をしているんですけども、やっぱり入れば入るほど現役世代をいかに巻き込むかという、そこが大事だなと思いながら、でもなかなか難しさを感じています。

そこで、多田さんにお伺いしたいんですけども、現役世代を巻き込むことは大事だと、その工夫、最初に特に未加入者との意見交換会をやられたというところで、集まってくれたんだなと思ったんですよ。要は、自分がやると思ったときに、それこそ回覧板で回しても多分来ないので、これは結構近々の自分の体験なんですけども、今週末に校区で町内対抗の運動会があるんですよ。自分の町内でいっばい子供を出そうと思って回覧板を回しても、返ってきたら全然出ない。見ていない。返ってこないものもある。結果的にどうするかといったら、子供がいる家庭全部に電話したわけですよ。結局マンパワーだなということになって、なかなか届かないと先ほどもおっしゃっていましたが、初めどういうふうに来てもらったのかなというところをまずお伺いします。お願いします。

○委員長（永井佑君） 多田様。

○参考人（多田政博氏） 未加入者に対してということですか。

○委員長（永井佑君） 大石委員。

○委員（大石仁人君） はい。

○委員長（永井佑君） 多田様。

○参考人（多田政博氏） やはり、先ほどから言うように、こちらに意識があっても、受けるほうは本当に低いので、未加入が50世帯ぐらいあるんですが、最初は10世帯ぐらいしか来ていないと思います。中には、御意見のある方はどうぞポストに入れといてくださいということで、意見欄に意見だけを書いた方もおられました。来られた方は意識もあるし、本当にその場で5世帯ぐらいは、それだったら入るよというので、すぐに入っていたいたというのもあります。一軒一軒行く、それを毎回できないんで、やっぱりポスティングですね。回覧板でもこういうことをやっていますよとか、とにかくどんどん発信していったりすることしかできないと思うんですよ。3回ほどやりましたが、未加入者はだんだん来る数が少なくなって、最後は1人、1世帯だけとか、そんな形になったりもします。

あとは、これも先ほど言ったように、いろんな意見があるんで、中にはPTAと同じで強制じゃないだろうとか、裁判でこういう事例があるのとか、裁判だどうのこうのとか、そういうことを書いてくる方もおられるので、ただ、やっぱり会って対話をすれば、ある程度は分かり合えるのかなとは私は思っているんで、行って駄目でももう一回行くとか、そういう形の動きはやっていこうとは思ってはおります。

○委員長（永井佑君） 大石委員。

○委員（大石仁人君）ありがとうございます。今、現役世代の方々も一緒にやられているのかなと思うんですけども、仕事をしながら地域活動ができる工夫などがあったら教えてください。

○委員長（永井佑君）多田様。

○参考人（多田政博氏）私も常にやっぱり皆さんに言っているのは、まずは仕事、家庭、これが一番です。これがないことには自治会とかPTAとかはできないですよと言っているんで、それは優先してやってください、出てこれなくてもいいんですよというのをやっぱり強く言っています。当然ながら、普通のサラリーマンの方は、平日の日中なんかまず来れない、動けないと思います。ですから、活動としては夜、あと土日ですね。土日なんかは、先ほど言ったように草刈りはもう本当に我々独自でやっているんで、やっぱり皆さんに見ていただいて、本当に大変ですね、じゃあ手伝いますよというので、やっぱり声をかけたら来てくれる、声をかけなくても来てくれるんですよ。そういう日頃やっているのを見て、先ほど言うように見せる活動をして、皆さんに理解してもらえると、そこで呼び込むぐらいしかないと思うんですよ。先ほど言ったように、今は回覧板を回しただけでは誰も来ないですね。一斉メールも何回もすれば来てくれる。ただ、やっぱり一番は、先ほどおっしゃられたように、直接電話して来てもらうとか、そういうのをしないことには今の時代なかなか難しいかなと思います。

毎年3月に新1年生の通学路を子供と親と一緒に歩くイベントをやっているんですけど、今まで呼びかけをしても、本当にちょっとしか来ないんですよ。世帯数、子供の数も減って、新入生の数が減っているんで、呼びかけしただけじゃ多分来ないなというので、今回、私が一軒一軒全部を回って説明して、そうすれば全員来ていただけるとか、やっぱりそんな形の動きしかないと思っています。

○委員長（永井佑君）大石委員。

○委員（大石仁人君）ありがとうございます。結局そこなんですよね。マンパワーなんですよ。そのキーマンがその地域にいるかどうか、そのキーマンの方々がいろんな工夫をされて、足を使ってやっているから結果が出ていると思うんですけども、要は継続可能かどうかというところが大事なかなと思います。本当に皆さんがキーマンだと思うんですけど、宮地さん、多田さん、古賀さんがいなくなったときに、じゃあそれで続けていけるのかというところで、要は仕組みづくり、本当にキーマンと仕組みと、あと行政との関わりかなと思っていますけども、そのキーマンの育成といいますか、いかがですか。次に続く方々、一緒にやっていく方、また、自分がいなくなってもそれが続くように誰かやったださる方というのは、今育成というか、発掘はできているのでしょうか。そこら辺はちょっといかがですか。宮地さんからお願いします。

○委員長（永井佑君）宮地様。

○参考人（宮地久男氏）自分の中では手応えは非常にあります。やはり時間をかけないとできない。先ほど多田さんも言われたように、パワーがかかるというのもありますよね。どうして

もお願いしたいときには名前を入れて手紙を出したり、だから、もう1対1ですよ。依頼する側と依頼される側という形を使ったりというやり方をしますよね。ただ、同じものをコピーして部数という部分よりも、ちょっと手間はかかりますけど、そんな伝える、つながるといふ部分についての手段を取ったりします。

それともう一つ、やっぱり地域の会議って夜大体7時ぐらいからやるんですけど、必然的に来られる、来られないがあるんです。ただ、来られなくてもいい環境というのは、議事録がありますよね。だから、今日はこんな集まりで、要はこんな話をしました、その中には情報伝達もあるし、あることを決めるときに話し合った、その結果がどうだというやつを作って、欠席者には全部配ります。これはもう一つ一つ押さえて、だから、若い人たちに来られないという連絡だけは頂戴ねという話だけは伝えてあります。だから、無理はさせないということで。

○委員長（永井佑君） 大石委員。

○委員（大石仁人君） ありがとうございます。

多田さん、いかがですか、次につなぐ工夫といいますか、キーマンだったり仕組みの面で、次につなぐ持続可能なコミュニティー、目指すコミュニティーに向けての取組、工夫などあれば教えてください。

○委員長（永井佑君） 多田様。

○参考人（多田政博氏） 私は、中学のPTA会長をしていたとき、本当に苦い経験がありまして、当時、先ほど言いましたように大久保委員とも議論したりとか、その当時ですけど、本当に、私は長になった以上はもうやるという形でがんがんやるんですけど、よくどこにも、長という名前だけの方いるじゃないですか。あれは絶対嫌なので、やるからにはとことんやるというのが信条というか。ですから、そういう形でやると、後の人がなかなか皆さん同じようなことはできないと言うんですよ。次のPTA会長を探すときも、ある程度話はしていたけど、結局最後は、いやいや、もう多田さんみたいなことはできませんというふうに断られて断られて断られて、せっかくしっかりつくり上げたものが、次の会長になった方ですとんとなってしまう経験がやっぱりあるんですよ。

ですから、先ほど宮地会長がおっしゃられた次の引受手ですか、そこをやっぱり育成していかないといけないということが一番問題点で悩んでいます。でも、多分中にはいるんですよ。それを見つけていくことを今やっていかないといけないと思います。隠れたい人がいっぱいいると思うんですよ。そこが私の今の課題です。

○委員長（永井佑君） 大石委員。

○委員（大石仁人君） 古賀さん、いかがですか。

○委員長（永井佑君） 古賀様。

○参考人（古賀由布子氏） キーマンの話ですよ。実は、防災の話で言うと、北九州市内で防災活動をしている人は結構多くて、北九大の大学生であったり、あとは共立大とか、いろんな

大学生が防災に取り組んでいて、その人たちと一緒に組んで、この前のイオンモール八幡東であそぼうさい in 北九州という大きな防災イベントができたんですね。なので、つなぐという意味では、そういう学生さんたちが物すごく防災について勉強して、地域にも入ってやっているというところがすごく多いですね。そういう方たちを集めて、防災Lab. 北九州というネットワークをつくっておまして、そこでお互いの団体でやり取りをしたり勉強会をしたりなんかもしています。なので、災害がすごく少ない北九州市ではありますが、そういう意識の高い方が物すごくいらっしゃるの、つながっていくことはできると思います。そういう方たちが地域にもっと散らばって地域の活動に入っていくことで、それはまちづくりにもなると思いますし、よそ者、ばか者、若者というあの原理で、よそ者がぼんと入ってその地域で種の役割というか、そういう役割になることが必要なのではないかなとは思っています。

先ほどちょっと多田会長とお話ししたときに、八幡東区で防災士のネットワークをつくったほうがいいかなみたいなことを話されていたんです。私もそれは同感で、北九州市には防災士が608人いらっしゃるの、その方たちのネットワークというのがもっと強くなれば、恐らく防災に関しては次のキーマンというのがすごく出やすい状態にあるのではないかと思います。そういう方が地域の中にもっと入っていけば、そういう道ができるといいのではないかなと思います。

○委員長（永井佑君） 大石委員。

○委員（大石仁人君） ありがとうございます。大変参考になりました。ありがとうございます。

○委員長（永井佑君） ほかの方どうですか。宮崎委員。

○委員（宮崎吉輝君） すみません。今日は貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。また、ありがたいお話を聞かせていただけたと思っております。

私も今町内会の隣組長というのをやらせていただいております。町内会費の徴収等もなかなか不在の方が多くて会えなくてというのは非常に苦勞していて、今日いただいたお話で、今の時代に合わせて、どんどん便利なものは使っていくというきっかけで、できる地域があるんだという事例を教えていただいたことは、本当に感謝しております。

また、いろいろお話しいただいた中で、やっぱり先ほど大石委員も言われましたけども、地域の中におられる子供を接点として、保護者をつながるという、先ほど宮地会長が言っていたように、私の地域でも、役員さんはお仕事が終わられた方々が中心的な役割をほとんど担っておられて、先ほどあったようにやっぱり行政との打合せがどうしても平日昼間となると、現役世代は出ていけないので、どうしてもそうなりがちなんですけども、もしそこが課題で現役の方々が地域のこういうコミュニティーである自治会、町内会に参加するためのハードルになっているならば、そこは行政が少し改善して、そのハードルを少しでも下げることができればいいんじゃないかなと思わせていただきましたし、共益費をという話の中で、やはりごみのネッ

ト代がかかるんですよと、防犯灯代がかかるんですよというのは、我々は当然この職業ですから存じ上げておりますが、市民が全て知っているわけではない。しかし、それは花野路自治区会だけがそうではなくて、市内全域そのコストがかかっている、町内会費で負担しているわけですから、その説明をきちっとするのは、やはりこれは行政の役割ではないかなとも思います。なので、今日いただいたお話の中で、市役所として、行政としてやはりまだまだ足らざる部分があるのではないかなというお話をいただけたなと思っておりますので、改善できるところ、行政としてもっと突っ込んでいけるところは突っ込んでいけるように、我々も議論をしていきたいなと思う次第です。

子供と保護者をどうやって地域行事、それから、地域の日常に巻き込むかというのは、私の地域でも伝統的にお祭りがあるので、お祭りとか運動会とか、そういう楽しいイベントですね。先ほど防災も防災祭りというお話がありました。まさにそうだなと。堅苦しい講座とかイベントではなかなか参加者は集まらないし、お知らせを回覧板で回してもやっぱり参加者はいなくて、先ほど言われたようにリーダーのマンパワーというのが非常に、最後はやっぱりそこなんだなと思いますし、次のリーダーをつくっていく、探すというのも簡単ではないんですけど、やはりそういう部分をこれからどうやって行政としてやっていけるのか、いくのかということも今日いただいたお話の中の気づきであるなど、ちょっともう質問はございませんけども、今日いただいたお話は大変ためになりましたので、これから我々の委員会としても地域コミュニティの活性化、それから、自治会、町内会の加入率が課題であるということは重く受け止めて取り組んでおりますので、今後ともまたいろいろ意見交換をする場があればいいなと、させていたいただきたいなという思いを持って、終わります。ありがとうございました。

○委員長（永井佑君） ほかの方、大久保委員。

○委員（大久保無我君） もう本当に貴重なお話を様々聞かせていただきまして、本当にありがとうございました。皆様がそれぞれの活動を精力的にされていることに、本当に敬意を表したいと思います。

1つ、それぞれ皆様にお伺いしたいんですけども、これはすごく根源的な話なんですけども、自治会とか地域組織というのは何のために存在をしていかなければいけないのかとか、これからどういう存在であらねばならないのかということについて、それぞれ思われていることをお聞かせいただければと思います。

○委員長（永井佑君） 宮地様。

○参考人（宮地久男氏） そうですね。構えてというよりも、やはり同じエリアに住んでいる人たちが支え合うというところ、だから、メリット、デメリットという、よくその話が先に出てくるんですけども、通常はもうメリットもデメリットもありません。何か事が起きたときに、自分は町内会に入っていないから助けてとは言いませんという話にならないでしょう。だから、誰かにやっぱり助けを求める、やはりその誰かがいるかないかというのは大きな違いですよ

ね。

だから、先ほど古賀さんも防災の話をされたんですけど、我々も人をつなぐ切り口で防災をやっぱり使うわけですよ。雨もそうまでない、地震もそうまでない。ただ、台風というのはやっぱり結構あるし、そういうときに恐怖を感じたとき、誰かに支えてもらうというところ、それをし合う形が自治会でしょうと、最終的には行政というよりも自分たちでやっぱり主体的に考えるという形を大事にしていくチームに、会になればいいのかなというところを目指してやっていけたらいいのかなと思っています。

○委員長（永井佑君） 多田様。

○参考人（多田政博氏） 自治会の存在意義ですけど、非常に難しいかなと思うんですよね。PTAも今は5年前と大きく変わってきたのがあります。PTAも強制加入がどうなのかとか、今自治会もよく言われているんですけど、先ほど宮地会長がおっしゃられたメリット、デメリットも当然あると思うんですけど、やはり生活していく上で人間1人じゃ生きていけないですよ。最近、高齢になった方で、高齢になって何もできないから自治会をやめると言われる方がよくいるんですよ。僕はいつも、それは逆ですよと言うんですよね。高齢だから、できないから、だから、自治会に頼っていただければ動いて何かお手伝いするんですよ、これが共助ですよと僕はいつもお伝えはしています。だから、よく子供がいないから、いなくなったから、大きくなったからもう自治会をやめるとか、そういう方もおられるんですけど、だから、ちょっと意識が違うかなと思うんで、それを避けるためにも一人一人説明していくしかないのかなと思ってはいます。説明すれば分かると思います。

○委員長（永井佑君） 古賀様。

○参考人（古賀由布子氏） 本当に防災の観点からいえば、私は助け合える人がすぐそばにいるというこの心強さというのは、もう何にも勝る防災、防災グッズなんか用意するよりもずっと大事な防災対策だなとも思います。私なんかは転勤族でしたので、周りが誰も知らない状態で小さな子供を育てていかなければならなかった状況のときに、隣の方が一言声をかけてくださったりするだけでも、どれだけ救われたかと思うことが多かったので、そういうつながり合いのためにもやっぱり自治会というのは必要だと思うんですね。

今、若いお母さんとかにお話を聞くと、自治会に入っているという方が少ないです。ただ、つながりが必要ではないと思っているわけではなくて、つながりの種類がたくさん増えているのもあるんですね。幼稚園のお母さん同士のお知り合い、あとは習い事の知り合い、あとは学校のPTAの知り合いとか、そういう感じでのやり取りをしているので、あえて自治会に入らなくてもいいという人のほうが結構多いのがあります。ただ、その中で一人の人が、何か自治会でこういうお祭りがあるから参加しようと言って参加して、そのまま自治会に入るというケースも結構あると聞きますし、あと、お子さんが小さければ小さいほど隣近所のおじいちゃん、おばあちゃんに助けてもらうということがすごくあるというのも聞きますので、そういう意味

で自治会というのがあるんだよというのを浸透していけば、入りたいと思う人も増えるんじゃないかなと思います。

○委員長（永井佑君） 大久保委員。

○委員（大久保無我君） ありがとうございます。恐らく皆さんの共通しているところは、やっぱり人と人ですよ。横の人とどうやってつながっていくかというところがすごく重要だなと思います。そういう意味で、例えば今市が取っている自治会を広げていきましょうというメッセージが本当にそれになっているのかなというのはいちよとあるんですよ。横の二、三軒の人とぱっとつながっていきましょうという、そのネットワークというか、別に僕らが10人、20人知っていく必要はないとは思いますが、多分横のつながりが広がっていくことで、そうやってじわりじわりと顔が分かる人たちが増えていくというふうに多分なっていくんだろうと思います。

今日、それぞれのお話を聞かせていただいた中で、宮地さんは子供を軸に多世代がつながっていくというような話をされていました。多田さんも、高齢の世帯と若い世帯をつなぐ、間の青年部会をつくられたということで、その触媒になろうとされたというような話もありました。古賀さんもお話の中で、学校と地域を取り持つようなアイデアを出されたりして、いずれもやっぱりどこかとかどこかをつなげていくという触媒的な作業をする人がいないと、せっかくそれぞれのグループがあるのかもしれないけど、それが有機的につながっていかないというところはあるんだろうと思います。地域によってそれぞれ特色があるでしょうから、何が触媒になるのかはそれぞれあるのかもしれませんが、その有機的につなげていく部分が学校であったり、NPOだったりということもあるかもしれませんが、何かそういう1つのきっかけというものがあったりとか、何か触媒的なものややっぱり見つけていくことが、私は地域づくり、地域が今よりも強くなっていく大きな要因になるのかなということ強く思いました。

私も仕事上、よく感じるのは、市に対して住民税を払っているんだから、市はこんなことをしてくれて当たり前だろうというような立ち位置で来る市民がいるんですよ。それこそごみの話とか防犯灯の話なんかも市がやっていると思っているんですよ。だから、別に何でお金を払わなきゃいけないのというふうな話になってくるので、さっき皆さんがおっしゃった、特に多田さんが言われているように、何をやっているかというのは、しっかり知ってもらわないことには、自治会にはなかなか入っていくことってないんだろうなということも強く思いました。

だから、例えば生活防犯灯なんかも、もう自治会設置灯とか名前を変えて、これは自治会が設置しているんだというぐらいの感じのことをしないと、多分分からないだろうと思うんです。自治会設置ごみステーションとか、そんなふうに言い方を変えないと気がつかないのかなという気もすごくしました。

また、あれですよ。私も防災士なんですけど、古賀さんみたいな感じで事業を何でも自治会の中でやってしまおうとか、やっていくと、なかなかマンパワーの話もそうだし、エネルギー

一がかかる。多田さんのように現役世代だと日中仕事をやっていたらなかなか時間が取れないしとかいう話になってくるので、やっぱり外部化していくというのも一つの方法ですよ。それが協働ですよ。NPOさんとかと協働しながらいろんなことをやっていこうというのが、多分これからのやり方なのかなということも今回のお話の中で大きなヒントになりました。ぜひ今後の議論の参考にさせていただきます。本当にありがとうございました。

○委員長（永井佑君） ほかにどうぞ。藤沢委員。

○委員（藤沢加代君） 私もちよっと一言意見というか、感想になりますけれども、申し上げたいと思います。

それぞれの立場から自治会、町内会、地域の活動に積極的に取り組まれているということに本当に頭が下がります。改めてお礼と敬意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

私も古賀さんと同じように、40数年前ですけれども、夫しか知り合いがない北九州に来ました。そして、今議員になっちゃったんですけれども、そういう中でいろんな活動をしてきて、PTAも子供会もその他の自治会にも聞きましたけれども、今日もやっぱりそれぞれ問題意識を持った方々が積極的に取り組んでおられると思いましたので、こういう方がおられるところはいいんです。多分継続してそのまま今の少子・高齢化の中でも自治会がしっかりとやっぱり地域の方々を支えていく活動をされていると思うんですよ。何もなければ本当に何もなくてもいいんですけれども、いざ何かあったときに災害、それから、人間関係、隣近所のトラブルなんかもありますけれども、そういうことが起こったときに相談に行く、言っていくところがあるというのがもう本当に町内会、自治会の大事なところだと思うんですよ。

私もいろいろ取り組んできた中で、やっぱり大事なのは、皆さん言われていますけど、人と人とのつながりなので、ピラをまいても誰も参加も何もしてくれないんです。割と仲間内でもですね。だから、何が大事かという、一声かけることなんです。一声かける努力といいますか、力を惜しまないというような活動をされているのが今日御参加の皆さんだったと思います。

そして、自分だけじゃなくて、周りの人々の幸福を願って、多分意識はされていないと思うんですけれども、人のために動くということをいとわない人たちに今日集まっていたと思っています。改めてこういう活動をさらに広げていっていただくことが市民の、住民の幸せにつながるのだなと再認識させていただきました、本当にありがとうございます。

それで、私は議員として、小倉南区の山手一丁目というところに事務所を置いておまして、つい最近敬老会に参加をさせていただきました。私自身がその対象になって、今年度中に招待の高齢者になるということでお招きをいただいて、参加させていただいたんですが、山手一丁目というのはインターネットでどう具体的に出ているか分かりませんが、新しい方との入れ替わりが結構できていて、ですから、高齢者が減っていくんですけれども、新しい世帯も増えて、世帯数はあまり変わっていない、人口も多分あまり変わっていないんだと思うんです。

よ。家族が入ってくるからですね。そして、近くに工業高専の広い宿舎があったもので、それが今宅地として売り出されるため造成をしているので、さらに増えると思うんですよ。

そしたら、そういうところはいいんですけれども、行政の方にもお願いしたいんですが、そうじゃないところです。人口が減っていくばかり、高齢化していくばかり、また新しい流入はない。なかなかここで担い手ができないというところ、それぞれの区や、北九州全体で細かく見ていったときに、どういうところがそうなるのかというところに、ぜひ行政の力も發揮していただきたいと改めて思いました。

私はもうじき議員を辞めようかなと思っておりますが、辞めたら町内会のお手伝いをしたいと公言して、御近所にふれ回っております。ですから、どういう形で、本当に皆さんが楽しみながら活動ができるか、若い人たちも子供たちも高齢者も、みんながそういう活動ができることが一番いいことだと改めて思いましたので、引き続いて皆さんには頑張ってくださいようお願いしたいと思います。ありがとうございました。

○委員長（永井佑君） 本日は12時終了を予定しています。次の質問で最後にさせていただきたいと思しますので、どうしてもという方は事前に挙手をいただければと思います。私も意見がありますので。中島委員。

○委員（中島隆治君） 今日貴重なお話を聞かせていただきまして、大変勉強になりました。本当にありがとうございました。やっぱり、それぞれの会長さん、また、代表の方のリーダーシップの下で、本当に強い思いで長年されてきたその結果が、今のこういった素晴らしい結果につながっているんだなということを改めて感じさせていただきましたし、また、やっぱりこういった自治区会の会長の皆様の思いが集まって、今の北九州市があるんだなということを改めて感じさせていただきました。やっぱり行政としても、こういった本当に懸命にされている方々にでき得る限りのバックアップをしていただきたいなということを改めて感じましたし、本当にそれぞれ地域の違いがある中で、工夫しながらされていることも学ばせていただきました。先ほど委員の皆様からもありましたけど、共通して、子供たちを巻き込んでされているという点に関しては、本当に大事な観点だなということも感じさせていただきましたし、また、時代の流れとともにスマホを活用してIT、また、メール、LINE等を活用しながら地域のつながりを保っているという、この時代の変化に対応しながらされているところも素晴らしいなと感じました。全部が全部、こういうやり方が市内全域に通用するかというと、それぞれの地域の違いとか、人とか年齢とか、今日改めて若松と八幡東区でも全然違うやり方で、現役世代の方が関わっている、また、高齢化が非常に進んでいる、单身の方も多い中での御苦労も感じさせていただきましたので、本当に各地域のこういったリーダーシップのある会長さんやボランティアの代表の方がいて、我々も安心した生活ができるんだなということを改めて感じさせていただきました。今日は本当にありがとうございました。

○委員長（永井佑君） ほかにないですか。

じゃあいいですか。ここで副委員長と交代します。

(委員長と副委員長が交代)

○副委員長（森結実子君） 永井委員。

○委員（永井佑君） 今日は本当にありがとうございました。お話を聞いた中と、あと事前に頂いた資料を興味深く見させていただいたんですが、多田さんのところで夏祭りの開催のことが特徴として一番下に書かれているんですけど、本当に個人的な意見なんですけど、まちづくりと我々の政治的な活動って少し似ているところがあるなと思いつつ聞かせていただきました。やっぱりキーマンの方ももちろんですけど、いろいろな地域の要求でしたり、その町内エリアの中でこういうふうにしてほしい、そういう願いを実現させていく中で、政治に関心を持ったりとか、自分の町をこうしたいというのが広がっていくんだというのは改めて感じさせていただきました。皆さんのようなキーマンと言われる方々がいらっしゃるところとそうでないところというのは、まだまだ差があるなと率直に感じましたし、口座振替はできないことになっているんだよということを言われた地域もあると聞いたことがありますので、今日の皆さんの取組はぜひ紹介させていただきたいなと思います。自治会、まちづくりについて悩まれている方々にぜひ紹介をさせていただきたいなと思いますし、行政が何をすべきか、どういうことをすべきかということはこれから議論させていただくんですが、今日のお話にあったような3名の方々の悩まれていることとか成功体験というものを、市政だよりとか公式LINEで市民の皆さんに公開していくということも、私は行政の役割ではないかなと思いました。この教育文化委員会の中だけで議論が終わるというのは非常にもったいないお話だったと思いますので、そこは今後、北九州市とのやり取りの中で議論させていただきたいなと思います。

今後、個別にいろいろとお問合せをさせていただくこともあるかもしれないんですが、今後ともよろしくお祈いします。今日は本当にありがとうございました。

○副委員長（森結実子君） ここで委員長と交代します。

(副委員長と委員長が交代)

○委員長（永井佑君） では、ほかにないですね。森委員。

○委員（森結実子君） ごめんなさい。執行部の方にもお願いなんですけど、私は保育園の理事をしまして、宮地さんがいらっしゃる枝光校区には何度も会議で伺ったことがあるんですけども、センター自体が明るいですね。職員さんが明るいんです。1階のロビーのところは広くて、本当に何も用事がなくても多分ふらっと高齢者の方が来て、知り合いがいたら、じゃあ将棋を打とうとか、碁を打とうとか、折り紙しませんかみたいな、そういうすごい明るい雰囲気があるんですね。もちろん宮地様のようにそういうキーマンがいらっしゃるということもありますけれども、行政のできることで場所の提供とかもあると思うんですが、大失敗例として、私が住んでいる徳力校区の市民センターは暗いんですよ。用のない者は来るんじゃないみたいな、そういう状態になっているんですね。でも、それじゃあいけない、やっぱり地域

の核となる市民センターは明るくて、みんなが何もなくても寄れるような、そういう場所の提供とか、あと例えば宮地さんのような成功体験を館長さんの会議ですとか。宮地さんのところとうちと全然違うんですね。だから、こんなに差があるんだというような、かなりショックなものでありましたので、行政としてはそういう情報の提供と、あと場所の提供、お金のかかることですが、これからは多分市民センターが核になっていくと思うので、そこには力を入れていただきたいと思います。

すみません、委員長が締めたのに、行政に対する要望になってしまって失礼しました。本当に今日はありがとうございました。

○委員長（永井佑君） ありがとうございました。

以上で質疑応答を終わります。3名の方、本当にありがとうございました。貴重なお話を聞かせていただきました。宮地様、多田様、古賀様、本当にありがとうございました。退室をいただいて結構です。

（参考人退室）

ほかになれば、本日は以上で閉会します。

教育文化委員会	委員長	永井	佑	㊟
	副委員長	森	結実子	㊟